

Q29 関係する担任が複数いるので相談する時間がとれず、共通理解も難しいです。



特別支援学級担任

子ども一人一人の実態が違いため、指導の方法も違います。関わる教職員の共通理解が難しいです。



通級指導教室担当

通級による指導は、在籍学級担任との連携が絶対的に必要ですが、その時間確保が難しい……。



特別支援学級担任

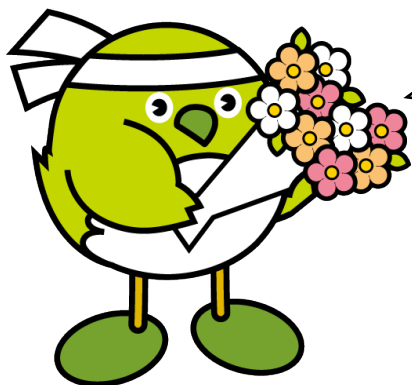
特別支援学級に常に子どもがいるため、交流学級の様子を見に行く時間もありません。

A 校内委員会・ケース会議の活用、学校のサーバーの活用、定期的な連絡、メモの活用、連絡帳（家庭用）の活用、個別の指導計画の活用等、現在していることに一工夫を加え、教員間の連携を充実させます。

交流（在籍）学級の担任や各教科担当の教員は、それぞれの学級や教科の業務に追われていて声をかけづらい、連携を図りたいが会議や話し合いの時間が取れない等の状況は、どこの学校でもあるようです。

そのような状況の中、令和4・5年度の本センター実施の通級指導教室や特別支援学級対象の実態調査の回答より、教師間の連携を工夫した実践例がありましたので、紹介します。参考にしてください。

- ケース会議**で他の教員と意見交換をする。
- 学校のサーバーの「生徒理解ファイル」**に、何かあったら書き込んで、共通理解を図る。
- 職員会議や学年会の児童生徒理解の場**で、方法等を共通理解する。
- 今日の調子や様子を、通級担当と**授業（通級）の前後**に確認する。
- 日常的に話をする。**時間が合わない場合は、メモ**を残す。
- 行事や集会時は、可能な限り**在籍学級へ入り**、様子を見る。
- 担当が書いた**連絡帳（共通理解ファイル）**を、**在籍学級担任、保護者の順に回覧**し、気づいたことを書いてもらい、情報を共有する。日課の変更等も、合わせて記入してもらう。（ファイルの受け渡しの際に、話をする時間を設ける。）
- 在籍学級担任と通級指導教室担当とが、連携しやすいように**個別の指導計画の形式を工夫**する。



新しく会議や共通理解の時間を設ける、資料を作成するのではなく、今していることに一工夫加えることが、ポイントです。